

知って
おきたい

Fantastic!
ファンタスティック!
漢詩ワールド

日本の 漢詩

宇野直人

第二回

五山の詩魂

富士山



富士山

仙客来遊雲外巔・
神龍棲老洞中淵・
雪如紈素煙如柄・
白扇倒懸東海天・

富士山

仙客来り遊ぶ雲外の巔
神龍棲み老ゆ洞中の淵
雪は紈素の如くにして煙は柄の如し
白扇倒に懸る東海の日

石川丈山

七言絶句（下平・一先）

詠富士山

誰將東海水・
濯出玉芙蓉・
蟠地三州尽・
挿天八葉重・
雲霞蒸大麓・
日月避中峰・
独立原無競・
自為衆岳宗・

富士山を詠ず

柴野栗山

五言律詩（上平・二冬）

誰か東海の水を將て
濯ひ出す玉芙蓉
地に蟠つて三州尽き
天に挿んで八葉重なる
雲霞大麓に蒸し
日月中峰を避く
独立原競ふ無し
自ら衆岳の宗と為る

富士山

春風泥深行路難・
途中借宿待晴乾・
士山影落茶盃底・
吞却天边雪一団・

富士山

中巖円月

七言絶句（上平・十四寒）

春風泥深くして行路難し
途中宿を借りて晴乾を待つ
士山影は落つ茶盃の底
吞却す天边雪一団

望富嶽二首 其二

富峰千丈雪・
寒光落盃中・
倒飲盃中影・
胸中生雄風・

富嶽を望む二首 其二

富峰千丈の雪
寒光盃中に落つ
倒に盃中の影を飲めば
胸中雄風を生ず

亀田鵬斎

五言絶句（上平・一東）

和韻送侍者登富士

韻に和して侍者の富士に登るを送る

古劍妙快

七言絶句（上平・二冬）

富士樽桑第一峰

富士は樽桑第一の峰

青天兼雪白雲重

青天雪を兼ねて白雲重なる

犀牛扇破時炎熱

犀牛扇破して時に炎熱なるも

絶頂高寒别有冬

絶頂の高寒は別に冬有り

富士山五絶 其五

富士山の五絶 其の五

天章澄或

七言絶句（上平・十一真）

海上奇峰画不真

海上の奇峰画くとも真ならず

連空晴雪玉尖新

空に連なる晴雪玉尖新たなり

憑誰負走皇州地

誰に憑つてか負走せしめん皇州の地

六月高寒快萬人

六月の高寒萬人に快からしめん

次韻賦富士山寄祖東伝答荷葉覆之句

韻に次して富士山を賦し祖東伝に寄せて「荷葉覆」の句に答ふ

義堂周信

七言律詩（上平・十灰）

富山面目自天開

富山の面目天自ら開く

肯与群峰競作堆

肯て群峰と堆を作すを競はんや

六月雪飛天外雨

六月雪は飛ぶ天外の雨

三冬龍奮地中雷

三冬龍は奮ふ地中の雷

岱宗謾說雄齊魯

岱宗謾りに説かる齊魯に雄なりと

培塿饒他屹草萊

培塿他の草萊に屹たるを饒さる

為報詩人須頌德

為に報ず詩人須らく徳を頌すべし

莫將千仞賦高哉

千仞を將て高哉を賦すること莫れ

望岳

岳を望む

盛唐 杜甫

五言律詩（仄律）（上声・十七篠）

岱宗夫如何

岱宗夫れ如何

齊魯青未了

齊魯青未だ了らず

造化鐘神秀

造化神秀を鐘め

陰陽割昏曉

陰陽昏曉を割つ

盪胸生曾雲

胸を盪かして曾雲生じ

決皆入歸鳥

皆を決すれば歸鳥入る

会当凌絶頂

会ず当に絶頂を凌いで

一覽衆山小

衆山の小なるを一覽すべし